

漁船の転覆及び大傾斜の防止手段に関する研究

漁業生産工学部

研究の背景・目的

漁船漁業は人命喪失の危険を伴う産業の一つとされており、転覆などの重大事故を防ぎ漁船の安全性を高めることは安定した労働力確保の面からも急務の課題である。

研究成果

比較的高速で航行する日本の漁船は追波中を航行しているときが一番危険である。船首部上部に固定翼を取り付けることにより、大傾斜した際のみ固定翼が水中に入り、翼に発生する揚力の寄与により転覆を防ぐため、通常航行時の速度・経済性を犠牲にすることなく、安全性を高めることが出来ることがわかった。

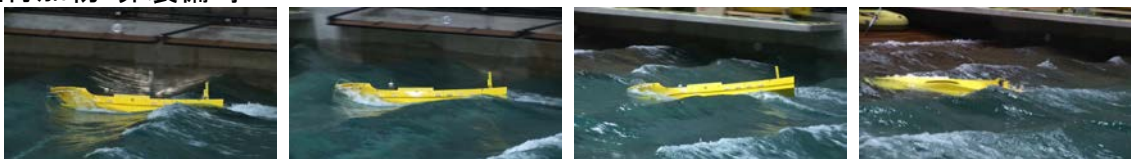


写真：大傾斜防止翼

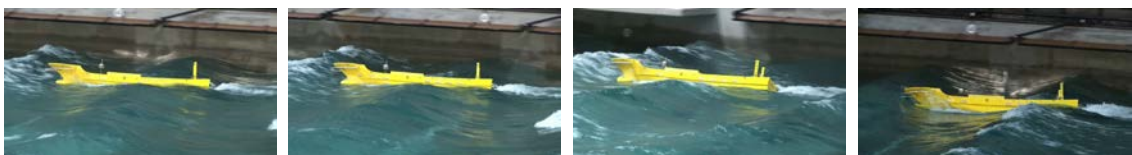
波及効果

既存の漁船にも総トン数を増やすことなく、比較的簡単な改造により取り付けが期待できる。
(特許第5201383号「転覆及び大傾斜の防止手段を有する船舶」を取得)

翼型付加物 非装備時



翼型付加物 装備時



(漁船工学グループ：松田秋彦)